

「開かれた国有林」の実現に向けた取組みについて

三八上北森林管理署 ○総務第一係 石鉢 幸恵
管理係長 西野 美喜男
流域管理調整官 林 直樹

1 はじめに

当署管内には、当署の国有林面積の6割以上を占める「十和田・八幡平国立公園」があり、この中には観光地として全国的に有名な「十和田湖」や「奥入瀬溪流」があり、年間約300万人の人々が訪れ、森林とふれあう場となっている。

平成11年3月に行われた国有林野の組織再編等により、「三本木営林署」から「三八上北森林管理署」に名称が変わり、国有林野の管理経営の基本方針も木材生産中心から公益的機能の発揮をより重視した方向に転換したが、地域の人々の中には、今ひとつ国有林の果たしている役割や名称変更したことも知らない人も多く見受けられる。

このようなことから、国有林を「国民の森林」とし、「開かれた国有林」としていくとの基本的な考え方にに基づき、広報活動の強化と併せ、地域振興への寄与の一つとして、観光名所を抱えた当署の地の利を活かしながら、職員の創意工夫による植樹祭・森林教室・森林ふれあい祭等のイベントの取組みの経過を紹介するとともに、現状と今後の課題について検証するものである。

2 具体的な取組み

平成12年度、当署では、町公園整備計画の一助として地域環境緑化も担った植樹祭の開催、奥入瀬地区で2度にわたり実施した市民のための森林教室、市内小学生を対象としたゲストティーチャーによる出前森林教室、木工品や原材料の販売と併せ森林情報の提供も考慮した「森林ふれあい祭」の開催等を通じた地域住民との交流や国有林のPR活動に取り組んだ内容を紹介するものである。

(1) 町公園整備計画にある公園での植樹祭

これまで当署では、植樹祭を地域住民の緑化思想の啓蒙・普及を目的として、国有林内の人工造林対象地で実施していたが、今年度は地域の環境緑化への参加を通じて、地域住民等への山火事警防や山菜採りで遭難防止のPR及び地元住民との交流を図るため、国有林外で実施することとした。

今年度の当署植樹祭は、5月23日に国道102号線沿いの道の駅に隣接した十和田湖町「奥入瀬ろまんパーク」内において開催し、管内の地元市町村長、関係団体及び林業関係者を招き、当署職員も含め約100名が参加して、公園広場の周りに「ヤマザクラ」の植樹を行った。

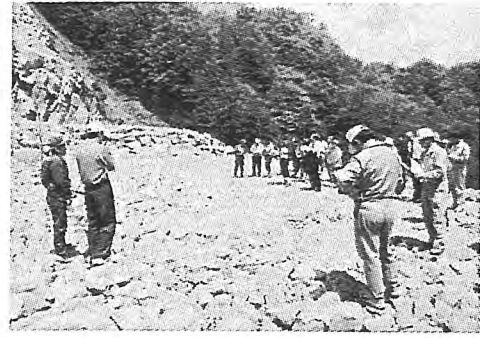
また、植樹終了後に平成11年3月に奥入瀬溪流で発生した土砂崩壊災害現場での国有林における復旧治山工事の状況を新緑のなかで見学していただいた。

この結果、次のような感想が寄せられ、参加者へのPRと理解が得られた。

- ① 地元の十和田湖町から大変感謝され、営林署（森林管理署）も変わった。
- ② 他の町長から「来年度は是非わが町で！」との要望が強く出された。
- ③ 地域との交流がより一層深まり、マスコミ等からも注目され地元新聞に掲載されたことにより、署のPRに効果があった。



写一 町公園を会場に開催した植樹祭



写二 植樹後行われた復旧治山工事現場の見学

(2) 一般市民公募による春・秋開催の森林教室

一般市民を対象とした森林教室については、従来より管内の国有林をフィールドとし、蔦沼自然観察教育林周辺での「蔦七沼めぐり」と黄瀬川上流の日本の滝100選にも選ばれている「松見の滝鑑賞」の両コースで開催してきたことから、参加者の募集や現地案内などのノウハウは蓄積されてきているものの、これまでの実施結果を見ると、ともすれば「ガイド付国立公園ツアー」となってしまうきらいがあり、国有林の機能や森林管理署の役割を、参加者に対してアピールする部分をいかに日程の中に盛り込むかを課題として、対象地、現地での案内・説明のポイントを検討した結果、参加人数は無理のない規模で効率的に実施することを念頭に企画した。

また、本年度は地域からの要請もあったことから、年2回開催し、公募方法も従来は十和田市民を対象として市の広報を通じ公募を行ってきたところであるが、他市町村の住民からの問い合わせも多いため、報道機関を通じ広く公募を行った。

公募人数には制限があったものの、参加者に対しては公益的機能を重視した国有林の管理経営や環境に優しい木材の利用等についてPRし、森林の持つ公益的機能やその維持管理の重要性について理解を深め、「国民の森林」としての国有林をより身近に感じてもらうことができた。

開催内容は地元新聞に掲載され、反響を呼んだ。



写三 植物観察の様子（蔦七沼）



写四 参加者の記念撮影（松見の滝）

なお、地域における森林・林業に対する一般市民の理解度並びに要請を的確に把握し、今後の国有林の取り組みの参考とするため、参加者から以下の通りアンケートを実施した。

森林教室 アンケート集計結果

参加者の男女比	男性	16 (38%)
	女性	26 (62%)
	計	42名 (うち回答者 26名)

表-1

I. 本日の森林教室についての感想

項目	人数	割合
良かった	22	84
普通	2	8
悪かった	1	4
無回答	1	4
計	26	100%

印象に残ったこと (1人で複数回答あり)

(良かった面)	展望がすばらしかった。	6
	植物の名前をたくさん教えてもらえて良かった。	3
	昼食会場でのキノコ汁、コーヒーがおいしく良かった。	3
	昼食会場での署員の対応が良かった。	2
	コースが厳しかったが感動した。	2
	完歩できて良かった。	2
	説明が詳しく良かった。	2
	多くの人と交流が図れた。	1
	もっと森林に関心を持つ必要があると感じた。	1
	ブナ林の自然状態がとても良かった。	1
	コースが最適である。(依然から行きたい所であったが道が 分からなかった。)	1
	距離がちょうど良かった。	1
	個人で行くと事故が心配だが安心して行けた。	1
	天候に恵まれ歩きやすく良かった。	1
(悪かった面)	体力的にきつかった。	2
	もう少し早く出発してじっくり見たかった。	1
	要所に案内板がほしい。	1
	初心者にはきつい。	1
	説明をもう少しほしかった。	1
	コースが厳しかった。	1

「良かった」という回答が8割以上であり、印象に残ったこととしては、「コースの展望がすばらしかった」、「職員の対応が良かった」などの回答があった。反面、「初心者にはコースが厳しかった。」、「説明がもう少しほしかった。」などの回答もあり、今後の実施に当たってはコースの選定や説明内容等を改善していく必要がある。

表-2

II. また森林教室に参加したいですか。

項目	人数	割合
したい	26	100
いいえ	0人	0%

参加したいとすれば

表-3

どこを希望しますか	希望の季節は	回答数	割合
蔦七沼	紅葉	9	28
松見の滝	紅葉	6	19
	新緑	2	6
十和田湖・奥入瀬溪流	初夏	4	13
	秋	3	9
	いつでも	2	6
	春	1	3
どこでもよい		1	3
その他(流域内)		1	3
無回答		3	9
計		32	100%

(複数回答含む)

回答者全員が「また参加したい」と回答しており、反響が大きかったことが伺える。

また、参加する場合の実施希望個所としては「蔦七沼」や「松見の滝」で、時期を変えて実施を希望するとの回答が多く、「十和田湖」や「奥入瀬溪流」での実施を希望するという回答もあり、今後の実施場所や実施時期について更に検討する必要がある。

III. 森林管理署のイベントはどのようなものがあれば参加したいと思いますか。

表-4

項目	回答数	割合
森林教室	13	43
(うち内容を指定しているもの)		
バードウォッチング	(1)	(3)
自然観察	(1)	(3)
体験林業	8	27
(うち内容を指定しているもの)		
枝打ち	(1)	(3)
鉋・刃のとぎ方	(1)	(3)
植樹祭	(1)	(3)
キノコ狩り	1	3
木工品まつり	6	20
何でも	1	3
無回答	1	3
計	30	100%

(複数回答含む)

その他意見

子供に見せ知らせたい。

草木の種を配り、家庭で観察しては。

回答者の4割が「森林教室」を希望し、2割が「木工品祭」を希望するなど、これまでの実施内容で満足していると考えられるが、「体験林業」を具体的な内容を示して希望する回答が約3割あったことは、森林・林業に対する関心の高さを示すものと思われる。

今後は、これらについても企画して実施する必要がある。

IV. 森林のもつ機能で重要と思うものをいくつか選んで下さい。

表-5

項 目	回答数	割 合
1. 水資源のかん養	24	19
2. 洪水などの災害から国土を保全する	22	18
3. 空気を浄化する	20	16
4. 地球の温暖化を防止する	20	16
5. 野生動植物の生息・生育地	19	15
6. 木材を供給する	10	8
7. レクリエーションの場	8	6
8. その他（昔のように生活の糧を得られるようにしたい）	1	1
計	124	100%

(複数回答含む)

「木材を供給する」とした回答が1割しか無かったのに比べて、「水資源のかん養」や「洪水などの災害から国土を保全する」、「空気を浄化する」、「地球の温暖化を防止する」や「野生動植物の生息・生育地」等の回答が8割以上であり、森林の持つ公益的機能を重視した国有林の管理経営のあり方と国民の意識が近づいてきている結果であると考えられる。

V. 林業に対するイメージについて

表-6

項 目	回答数	割 合
1. 森林の働きを維持するために間伐など木を伐ることは必要である。	22	55
2. 自然を守るため木を伐るべきでない。	12	30
3. 建築材や紙を生産するために必要で、木を伐ることは仕方がない。	3	8
4. 木材の利用を広げるためにもっと伐るべきである。	1	2
5. その他		
自然破壊にならないよう配慮しながら総合的に考えて伐る方法は如何か	1	2
国有林のスギの造林地を除々に広葉樹に切り替えてほしい。	1	2
計	40	100%

(複数回答含む)

森林の機能維持のために間伐等の保育の必要性について、約半数が理解できるとの回答が得られたものの、木材利用としての森林の伐採は自然破壊とのイメージが強く、反対であることが伺える。これは、森林に対する関心が高まっている反面、産業としての林業に対する関心、理解の低さが原因と考えられる。

今後は、森林の持つ公益的機能の発揮の面のみならず、環境に優しい木材利用の推進及び木材生産を通じて適切な森林施業の必要性について、一般に啓蒙活動をしていく必要がある。

表-7

VI. 国有林や森林管理署をご存じですか。

項 目	人 数	割 合
はい	21	81
いいえ	1	4
無回答	4	15
計	26人	100%

VII. 森林管理署が行っている事業で知っているものをあげてください。

表一 8

項 目	回答数	割合
1. 森林を保全・管理している。	23	32
2. 森林を保育している。	19	26
3. 災害から国土を守っている。	14	19
4. 林道を作っている。	8	11
5. 木材を販売している。	7	10
6. その他	2	3
計	73	100%

(複数回答含む)

回答者の8割以上が国有林や森林管理署を「知っている」と回答しているが、「知らない」という回答もあった。

また、森林管理署が行っている事業については、「森林を保全・管理している」や「森林を保育している」等の事業は知られているが、林道事業等についてはあまり知られていない結果となった。

今後は、これらを含め、より具体的な事業や取組みを積極的にPRしていく必要がある。

VIII. 森林管理署に対して意見、期待することがあればあげて下さい。

- ・ 自然保護に力を入れてほしい。
- ・ もっと森林への関心が高まる様にPRすべきだと思う。
- ・ 小中学校に森林教室を学年別に行ってほしい。
- ・ 特に青森の名の付く植物等を教えてほしい。
- ・ 国立公園と森林の重要性を体験させてほしい。
- ・ ヒバの間伐材を使った木えん堤をもっと増やしては如何か。
- ・ 日本固有の植物等の保存
- ・ 新しい植林の場所にはスギをやめて広葉樹にしてほしい。
- ・ 植物の盗掘、ゴミ投棄は防げないものか。私たちにも出来ることはないか。
- ・ これからはレクリエーションの場としても重要だと思うので、入林者に優しい緑の案内者の仕事もできるように研修の時間も多く取れればと思う。
- ・ 地道に活躍している人のおかげで森林が保たれていることは大切。後世まで伝えて行ってほしい。
- ・ 森林浴を手軽に行えるような森林の開放をしてほしい。
- ・ 他の青森分局の森林管理署ではどのような催しが行われているか分からないので教えてほしい。また行っていないければ他の森林管理署にも同じような催しを広めてほしい。

「自然保護に力を入れてほしい」、「もっと森林への関心が高まる様にPRすべきだと思う」等の多くの意見が出され、森林を管理・保護していくことに対しては、一定の理解が得られているものと考えられる。

今後は、これらの意見を的確に反映させた森林施業と、国有林野事業のPRを積極的に行い、一般への理解の増進を図るとともに、森林施業への参加等による支援層の拡大を図っていく必要がある。

(3) 木工品の販売と併せ森林情報を提供した森林ふれあい祭

「一署一品成果品等の展示・販売」については、地域住民等から開催の強い要望があったにもかかわらず、職員が減少するなかでの取り組みが難しい状況にあった。

しかし、今年度は従来の木工品展示即売に加え、地域住民へ身近な森林がもつ様々な恩恵について見て触れることにより理解していただくとともに、国有林及び三八上北森林管理署のPRに努めるために、

- ①管内の図面・写真、調査器具等の展示や航空写真の実体鏡による実体視
- ②野生キノコの展示・鑑定会
- ③与作体験・輪投げ（つる利用）コーナー

等の各種コーナーを設けるなど、来場者が興味を持ち、かつ、楽しめるように全職員がアイデアを出しながら一丸となって取組み、庁舎構内を会場に10月29日(日)開催した。

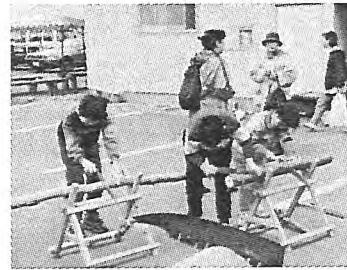
この結果、一署一品での増収入がはかられたことはもちろんのことであるが、地域との交流がさらに深まり、また、森林・林業、そして国有林への関心がより強まり、「来年もやってほしい」などの要望が寄せられ、地域へ強くアピールできたものとする。



写一五 森林情報の提供



写一六 野生キノコの展示・鑑定

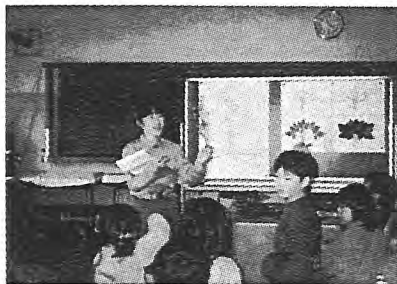


写一七 与作体験コーナー

(4) 市内小学生を対象としたゲストティーチャーによる森林教室等

自然環境の保全や地球温暖化など、森林に対する関心が近年一段と高まってきており、十和田市内の各小学校でも、社会科の授業に「体験学習」等を取り入れて来ていることから、市内小学校からの要請に基づき、当署でも職員を派遣して森林教室を開催することとした。分局関係者の協力を得ながら、森林・林業に対する理解を深めてもらうために副教材、各種標本、署で使用している道具等を教室に持ち込んで、生徒が目で見て手に触れて体験できるようにと、職員が工夫をこらした「出前森林教室」が大変好評を得ており、後日、学校から感謝の礼状と生徒の作文が寄せられている。

また、大学の森林環境学部の受験を目指す高校生が、学校の紹介で当森林管理署を訪れて、森林・林業の果たす役割、国有林野事業の概要を聞いていった結果、このことが大変役に立ち、無事目指す大学に合格した旨の報告と、親切ていねいな対応に対するお礼の手紙が寄せられ、職員も本人同様喜んでいる。



写一八 職員手作りの森林教室の様子



写一九 丸太切りの体験学習の様子

(5) 国有林のフィールドの提供

ア ふれあいの森

「開かれた国有林」の取り組みの一つとして、森林整備を目的としたボランティア活動に参加したいという要請に応えるため、今年度から当署管内の「谷地国有林119は、林小班」内にふれあいの森を設定した。

今年度は、自主的な森林整備活動を行うことを目的とする民間団体と1.34HAを対象に協定を締結し、初年度の整備として地拵え及びブナ苗木の植栽を実施した。

今後も新たな参加者の発掘に努め、ニーズに応じた取組みに努めることとしている。

イ 植樹会場の提供

当署管内では、河川の浄化活動を行うNGOから、活動のための植樹箇所の提供等の要請があり、ブナの苗木の幹旋やフィールドを提供している。

また、新しい動きとして流域内の市町村の教育委員会の合同主催による植樹活動が奥入瀬溪流で開催されている。更に一般市民が自由に森林整備の体験が出来るフィールドが求められており、今後はフィールドの提供のみならず、外部イベントへの参画や講師の派遣等の要請があれば応えていくこととしている。



写一10 ふれあいの森協定箇所



写一11 NGOによるブナの植樹活動

3 考察（取組みの効果等）

国有林野事業の抜本的改革を踏まえ、青森分局の今年度のテーマである「新世紀の国有林に向けての実践活動の展開」の三大目標の一つである「開かれた国有林の具現化」を推進するために、署広報誌を発行・配付したほか、国有林に対する地域の要望を的確に把握し、これらに適切に対処し、職員一丸となってイベント活動等に取り組み、マスコミにも取り上げられ報道されたことによって、これまであまり地域住民には知られていなかった森林管理署の業務が一般に紹介され、国有林・森林管理署のPRに繋がるとともに、地域からの信頼が得られ、且つ地域振興への寄与として貢献できたものと思う。

また、このようなイベント活動等を通じて、地域の要望をより一層把握できたものと考えている。

4 終わりに（今後の課題等）

少ない職員のなかにおいても、経常業務と調整を図りながら署一丸となって取り組んだ結果であり、国有林・森林管理署の果たしている役割等についても、地域へのPRに非常に効果的であり、今後も地域住民の要望に応えるべく、継続的に実施できるような取組みにしていきたいと考えている。